

**製品名: SART1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86758**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:90 kDa; Observed MW:120 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	SART1
別名	HAF; Ara1; HOMS1; Snu66; SART1259; SNRNP110
遺伝子ID	9092
SwissProt ID	O43290
免疫原	ヒト SART1 の合成ペプチド

**背景**

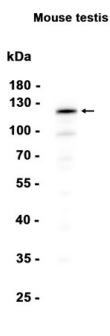
この遺伝子は、増殖細胞の大多数の核で発現する SART1(800)タンパク質と、上皮癌の細胞質で発現する SART1(259)タンパク質の 2

つのタンパク質をコードしている。SART1(259)タンパク質は、転写後調節中に-1フレームシフトの機構によって翻訳されるが、その全長配列はまだ公表されていない。コードされている2つのタンパク質は、増殖の調節に関与していると考えられている。両タンパク質は腫瘍拒絶抗原を持っている。SART1(259)タンパク質は、癌患者においてHLA-A2402 拘束性細胞傷害性Tリンパ球を誘導することができる腫瘍エпитープを持っている。このSART1(259)抗原は、癌患者に対する特異的免疫療法に有用である可能性があり、アレルギー患者の診断と治療のパラダイム的なツールとなる可能性がある。SART1(259)タンパク質は、スプライソソーム組み立て経路において、tri-snRNPをプレスプライソソームにリクルートするために必須であることが判明した。[RefSeq 提供、2008年7月]

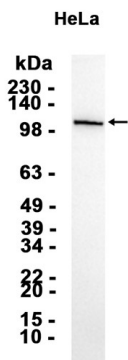
## 研究分野

-

## 画像データ



SART1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してマウス精巣組織抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。



AMRe86758 を 1:5000 で使用して HeLa 細胞抽出物をウェスタンブロット分析しました。